

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和5年 3月1日

公表:令和5年 3月 6日

事業所名 社会福祉法人サポートバディ ぴよランド

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	○		・活動に必要な物以外は片付けスペースを有効活用している。	・活動に必要な物以外は片付けスペースを有効活用している。
	2	職員の配置数は適切である	○		日々、配置基準の確認を行っている。	・専門的な資格を取得したり、研修等で質の向上を目指していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	・簡易のスロープを必要に応じて利用している。	・様々な障害の特性に応じられるように環境を整えていく必要があるため検討を重ねていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・部署内会議にて振り返りを行い業務改善に努めている。	・引き続き業務効率化に努めていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・毎年実施している。	・保護者向け評価表を参考に支援の見直しをしていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・毎年実施している。	・評価を受け止め改善に繋げていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	・他部署等違う視点からアドバイスをもらい業務改善に繋げている。	第三者委員の選任を検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・研修報告書を作成したり、研修で学んだことを伝達し職員が共有出来るようにしている。	・研修に参加し、職員の質の向上に繋げていく。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		・半年に一度モニタリングと共にアセスメントを行い現状の課題を見極め個別支援計画を作成している。	・現場で職員同士計画を確認しながら個別支援計画に沿った支援が出来るようにしていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・保護者にとって負担とならないようなツールを使用している。	・個々の状況把握に努めていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・週案を立てて目的を明確にし取り組んでいる。	・チームワークを意識して支援していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・季節の行事や新しい活動を取り入れている。	・活動の目的を共有し実践していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		・特に長期休暇は色々な体験や経験ができるようカリキュラムを組んでいる。	・月案にてサービス提供時間に合わせて活動を計画していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		・個別指導、集団活動等組み合わせサービスを提供している。 ・アセスメントにて状況を把握し、計画をしている。	・職員全員が個別支援計画の目標を共有し、支援できるようにしていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・予定や活動内容、目的等ボードにかき共有できるようにしている。	・一人一人の役割を明確にしていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・ラインワークス等を活用し、情報を共有している。	・その日に情報を共有できるようにする。 ・支援方法においても、お互いに言い合える関係を作り支援の見直しを行っていく。支援方法をより統一出来る様にしていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・毎月、会議の中で支援方法等議題にあげ、検討している。	・日々の記録を今以上に充実させていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		・半年ごとに一度部署内会議にてチームでモニタリングを行っている。	・成長段階に応じて見直しをしていく。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		職員にガイドラインを周知させ取り組んでいる。	・ガイドラインの基本活動を十分に取り入れ個々に合わせた支援をしていく。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		適宜、担当者を会議に出席させている。	・支援担当者が参加できるよう調整していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		適宜、関係機関との情報共有を行っている。	・学校送迎時に分からないことがあれば担任に積極的に質問し、子どもの様子においても密に連絡を取り合って情報共有していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		・医療的ケアを受け入れている時には安全委員会の議事録を送付している。	・現在該当する利用児はいないが、受け入れる際は主治医との連絡体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		適宜、関係機関との情報共有を行っている。	・分からない事があれば連絡し、情報共有に努めていく。また、相談支援を通して担当者会の開催を促していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		適宜、関係機関との情報共有を行っている。	・移行する事業所へ担当者会等で情報提供し、スムーズに移行できるよう努めていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・児童発達支援センターで行われる研修や勉強会に参加している	・児童発達センターと連携して専門的な知識を習得していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		現在は機会がない。	・地域の行事に参加し、交流を深めていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		・必ず出席出来る様に調整している。	・今後も参加し事業所間の繋がりを強化していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・送り出しの時や送迎時にその日の様子を伝え保護者と話す機会を設けている。	・保護者から相談を受けた場合に限らず、支援中に気がついたことがあれば状況や対応を伝えるようにしていく。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		・保護者支援の研修等に参加している。	・保護者支援の研修に積極的に参加し、保護者のサポートに対応できる職員を増やしていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・契約時に説明し、運営規定については常時、閲覧できるようになっている。	・変更時は分かりやすく説明し同意を行っていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・面談の時以外にも、保護者の様子を見ながら声をかけている。	・日頃から話しやすい関係作りに努めコミュニケーションを大事にしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者向け勉強会を開催している。	・保護者同士が繋がりが持てるように機会を作っていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・ご意見BOXを設置している。	・苦情があった時には迅速に対応し、改善に努めていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・お便りや掲示やInstagramを活用し情報を発信している。	・引き続き発信していく。
	35	個人情報に十分注意している	○		・外部へは匿名で使う等配慮している。	・保護者の同意を得て正しく取り扱いしていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・個々に応じて伝達方法を変えている。	・本人や保護者の特性を十分理解出来る限り配慮していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・町内の作品展等に利用児の作品を出展させていただくなど交流を図っている。	・今後も地域とともに共生を目指し、交流を図っていく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	・様々な場面、状況を想定し訓練をしている。	・引き続き月に一回は避難訓練を行っていく。保護者にも緊急時のマニュアルを年度初めには伝えていくようにする。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	・月1回防災、防犯訓練等実施したり消防団による応急救護訓練なども定期的に実施している。	・どの場面、状況においても冷静に判断し、一人一人が役割を把握し上手に連携がとれるようにしていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	・虐待防止委員会を設立している。	・毎月、部署内会議で支援の振り返りと見直しを行っていく。虐待に対する研修にも積極的に参加していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	・毎月部署内会議で振り返りを行い。保護者に同意を得たうえで、個別支援計画に記載している。	・引き続き会議で振り返りを行っていく。 ・事案がある場合は適切に対応していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	・保護者から契約前にアセスメントし、アレルギーの有無、配慮すべき点を聞き取りしている。	・口にすることは原材料の確認等、引き続き十分配慮していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	・リスクマネジメント管理して毎月部署内会議で話し合い職員間で共有したり対策している。	・引き続き会議で振り返りを行い共有していく。